

基礎案での記載箇所		章項目	5. 2. 2	ページ	p.35	行	33行目
事業名	水位操作の検討 (淀川大堰、瀬田川洗堰)		河川名	淀川、瀬田川			
府 県	大阪府、滋賀 県	市町村	大阪市、大津市		地先	毛馬、黒津	

●現状の課題

琵琶湖では、淀川水系の治水・利水面からの水位操作により、生物の生息・生育環境を形成してきた季節的な水位変動パターンが変化した。例えば、5月中旬から約1ヶ月の間に琵琶湖水位を約50cm急激に低下させてしまうととも、夏以降の水利により必然的に水位が低下している。これらが魚類等の産卵・生息に影響を与えている恐れがあるほか、琵琶湖の水位が高い冬期間には波浪による浜欠けを助長し、ヨシ刈りに影響を与えているところがある。

淀川大堰上流部における水域では、平常時水位が高めに安定していることが、ワンドや水辺の浅瀬の面積を減少させ、またワンドと本流との水の交換の減少を招き、ワンド内の水質悪化や底質悪化の原因の一つにもなっている。

●河川整備の方針

河川及び琵琶湖における生物の生息・生育環境を保全・再生するため、治水への影響や水需要の抑制を踏まえた利水への影響を考慮した上で、河川の水位変動や攪乱の増大を図ることや琵琶湖の急速な水位低下を抑制する観点から淀川大堰や瀬田川洗堰等の運用を検討するとともに、新たな施設による容量確保を検討する。

堰の水位操作の見直しに際しては、生物及び生物の生息・生育環境の調査を実施し、問題点等実態を把握の上、試験操作を行いながら、モニタリング及び評価を実施する。

●位置図



●具体的な整備内容

(1)淀川大堰において、春季から夏季の平常時に、湛水域ワンドの水質を改善するため、低い水位を維持するとともに、出水時の変動に応じた水位操作を試行する。

(2)瀬田川洗堰において、治水・利水の影響を考慮した上で試験操作を実施しながら、琵琶湖における生物の生息・生育環境を保全・再生するための水位操作を検討する

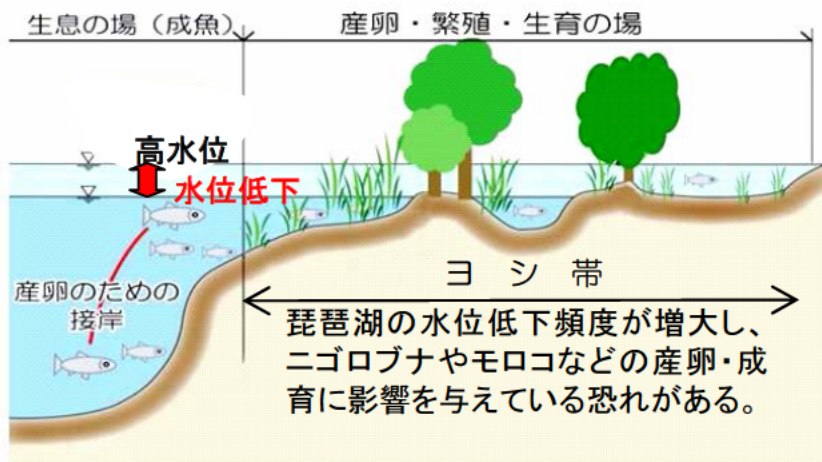
(3)琵琶湖における急速な水位低下と低い水位の長期化を抑制する方策を検討する。

- 1)瀬田川洗堰による水位操作
- 2)関係者と連携した水需要の抑制
- 3)琵琶湖からの放流量を補う琵琶湖への流入水量の確保
- 4)琵琶湖からの放流量の振替水量の確保
- 5)淀川大堰下流、大川(旧淀川)、神崎川の維持流量の検討

●整備効果

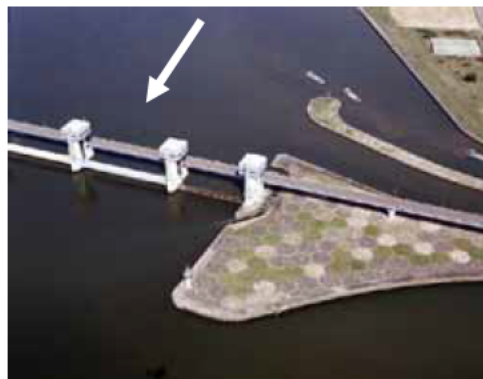
◇瀬田川洗堰

環境に配慮した洗堰操作を実施することにより、産卵面積が増加するとともに、産卵された魚卵の水位低下による干出死抑制、仔稚魚の干出死の抑制など、ニゴロブナなどのコイ科魚類の繁殖に貢献できると考えている。



◇淀川大堰

ワンドを有する淀川湛水域において、人工的な水位管理により良好な水環境、良好な生物の生息・生育環境を目指して試行を行う。これにより、従来の治水・利水のみを対象とした淀川大堰の運用ではなく、環境面にも配慮した淀川大堰の運用が可能となる。



城北ワンド群と淀川大堰

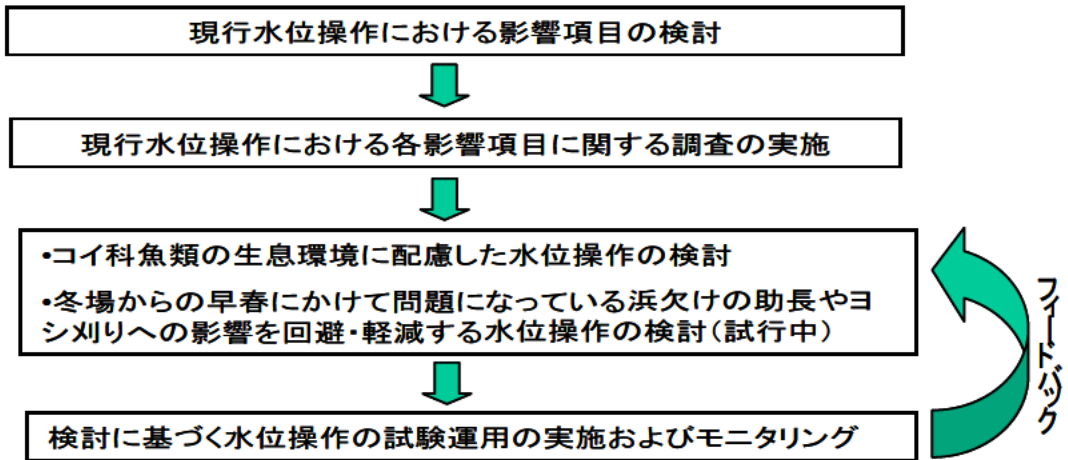
●提案理由(代替案含む)

◇瀬田川洗堰

1. 箇所決定理由

琵琶湖の水位変動が、コイ科魚類の産卵・成育やヨシ刈りなどに影響を与えている可能性があり、また浜欠けを助長しているなど環境に影響を与えていることから、現状を把握し、環境に配慮した水位操作を行う必要があると考えたため。

2. 具体的検討手法



◇淀川大堰

1. 箇所決定理由

淀川大堰上流部における湛水域では、平常時水位が高めに維持されており、生物の生息・生育に重要なワンドや水辺の浅瀬の面積が減少している。またこれに伴い、ワンド内の水深が深くなり、底層水の溶存酸素が低下し、ワンド内の水質悪化の原因の一つになっている。

これはワンドに限らず湛水域全体の問題であり、その影響範囲も広いため、良好な生物環境のための水位のあり方について検討し、将来的に可能な水位操作のあり方を求めていくことを目的としている。

2. 検討手法

これまでの知見を踏まえ試行操作パターン、調査項目・対象等を絞り、試行操作時の調査及び通年フラッシュ操作の影響に関する植生等調査も併せて行い、知見の蓄積を重ねる。

